

第三回CALNA運営委員会議事録

日時：1月24日（水）16：00～17：00

会場：医系研究棟1号館10階 脳神経外科医局カンファレンスルーム

出席者（敬称略）

運営委員：

若林俊彦（運営委員長・脳神経外科学）、石黒直樹（病院長・整形外科）、曾根三千彦（耳鼻咽喉科学）、椰野正人（腫瘍外科学）、藤本豊士（分子細胞学）、木山博資（機能組織学）、荒川宜親（分子病原細菌学）

実務委員：

荒木芳生（脳神経外科学・実務委員長）、今釜史郎（整形外科）、中野智則（手の外科学）、都築秀典（耳鼻咽喉科学）、宮田一志（腫瘍外科学）、寺澤幸枝（心臓外科学）、柴田康之（麻酔・蘇生医学）、棚橋邦明（脳神経外科学）、宇田憲司（脳神経外科学）、宮田卓樹（細胞生物学）、高木佐知子（献体事務室）、横山和浩（総務課学部事務係）、荒木良太（経営企画係）、酒井彩乃（経営企画係）

欠席者（敬称略）

平田仁（手の外科学）、小寺泰弘（消化器外科学）、横井香平（呼吸器外科学）、碓氷章彦（心臓外科学）、西脇公俊（麻酔・蘇生医学）、藤本保志（耳鼻咽喉科学）、藤原道隆（消化器外科学）、高成啓介（形成外科学）、中村彰太（呼吸器外科学）、山口誠（経営企画係・係長）

運営委員長から挨拶

< 議題 >

1. 今年度 CALNA 利用実績

実務委員長・脳神経外科学 荒木より、以下の資料のごとく説明。

(H28 年度)

- 2016 年 3/17-18 第1回脳神経外科手術手技セミナー（参加5名）
- 2016 年 11/16-17 第2回脳神経外科手術手技セミナー（参加10名）
- 2016 年 12/24-25 第3回脳神経外科手術手技セミナー（参加9名）
- 2017 年 3/24-25 第4回脳神経外科手術手技セミナー（参加14名）

(H29 年度)

- 2017 年 5/12-13
第1回形成外科・耳鼻咽喉科手術手技トレーニングコース（参加21名）
- 2017 年 9/15-16 第5回脳神経外科手術手技セミナー（参加5名）

- 2018年 2/9-10 第6回脳神経外科手術手技セミナー（予定）承認が得られた。

2. CALNA 参加診療科の追加について

荒木より以下の資料のごとく説明。

腫瘍外科学：（運営委員：椰野正人、実務委員：宮田一志）

- 食道、肝臓は固定具合によっては使用可
- 開腹下、内視鏡下での上下腹部の手術トレーニングが可能

呼吸器外科学：（運営委員：横井香平、実務委員：中村彰太）

- 肺の状態は良好
- 開胸下、内視鏡下での胸腔内手術トレーニングが可能

心臓外科学：（運営委員：碓氷章彦、実務委員：寺澤幸枝）

- 心臓から大動脈にかけて使用可能。開胸下での実際の冠動脈バイパス、弁形成術などの再現が可能

麻酔・蘇生医学：（運営委員：西脇公俊、実務委員：柴田康之）

- 穿刺、色素注入による神経ブロックのトレーニングが可能。気管切開のトレーニングなども検討

承認が得られた。

3. ご遺体の使用状況

実務委員・脳神経外科学 宇田より以下の資料のごとく説明。

H29年度

- 12体（Thiel固定） H30年 3/9, 27 八事霊園で火葬予定
毎年10月 第2週 木曜に弔慰祭を予定
（今年度出席者：H29年10月12日 形成外科学 高成啓介、耳鼻咽喉科学 西尾直樹）

現在

- 6体（Thiel固定） 未使用 H31年 3月火葬予定
荒木「参加診療科には1-2名の弔慰祭への参加をお願い致します。」

4. CALNA 利用時の問題点（解剖学講座からの指摘・要望）

宇田より資料のごとく説明。

1. ご遺体搬入・管理にかかる費用について

①火葬代 市内の方 5,000 円×4 体

市外の方 70,000 円×8 体 計 580,000 円

②火葬場までの運送代+棺・骨壺代 約 200,000 円/12 体

③大学への搬入代+葬儀代 5~7 万/1 体（来年度から葬儀代の値上がりが予定されている）

④Thiel 固定液などの材料費

①④と別に 1 体につき解剖学教室へ 10 万円の支払いが設定されているが、②+③（約 10 万円/1 体）に当てる予定。

宇田「解剖学教室への支払い額はこれで良いか？」

運営委員・分子細胞学 藤本「必要経費のみで余剰金が出ないようにしたい。」

実務委員・機能組織学 木山「余剰金が出たら学生実習のために使用したらどうか。」

運営委員・病院長 石黒「医師の生涯教育として、学部の経費とは切り分けて考えるべき。CALNA から解剖学講座へ必要分を支払う。高難度手術のトレーニング施設は絶対に必要なものである。」

石黒「CALNA に割り当てた病院予算を使って適切に利用していただきたい。」

実務委員・検体事務室 高木「ご遺体にかかる必要経費を合わせ、余剰金が発生しないように運営していく。」

石黒「将来葬儀代の変更などに伴い、解剖学講座への支払い額は柔軟に変更すべき。」

宇田より解剖室の最大電源容量について資料のごとく説明。

小解剖室には電源コンセントは 2 個、大解剖室には 5 個

1 個につき最大 15A まで。 電気メスは 1 台 6A、内視鏡セット 1 台 11A

その他無影灯、吸引器、顕微鏡、モニターなどを併用していく場合、最大電源容量を増設する必要がある。

宇田「今後セミナー規模拡大に伴いご相談させていただく。」

実務委員・腫瘍外科学 宮田「電気メス、エネルギーデバイスも使用する予定。」

実務委員・整形外科 今釜「電気メスは、海外のセミナーや他大学でも使用されている。」

5. 会計報告

宇田より、添付資料のごとく説明。次回の火葬代は来年度に持ち越す予定。

承認が得られた。

6. その他

1)来年度厚労省補助金申請について

宇田、荒木より、添付資料（新聞記事）のごとく説明。募集開始次第、応募する予定。

宇田、荒木より、購入検討品として内視鏡システムの紹介。腫瘍外科学と事前相談済み。

石黒「同じシステムで腹腔鏡も、胸腔鏡も可能であるか」

腫瘍外科学 宮田「可能であるが、鉗子などは別購入となる。」

石黒、運営委員・腫瘍外科学 椰野「金額を考慮すると中古品を購入すべき。」

荒木「脳神経外科で既に顕微鏡を購入したため、新規参入の診療科の必要物品の購入を優先したい。」

石黒「厚労省の補助金が得られれば購入すべき。」

荒木、宇田「レンタルでも使用可能。」

腫瘍外科学 宮田「レンタルの場合、使用後の洗浄・滅菌費用についても考慮が必要。」

2)CALNA 利用者対象者枠の拡大について

宇田より、資料のごとく説明。

- ・現在の内規では実習の参加対象は学内医師、医学生に限定されている。
- ・各診療科の同門医師への拡大することはどうか。（最終的には学外を含めた公募を目標）
- ・CST ガイドラインでの公募の推進、CALNA 利用の増加に向けて
- ・実務委員から実習前講義を行い、プライバシー保護を徹底する

宇田「まずは同門施設へ枠を広げたい。」

椰野「声をかけていくと良い。」

石黒「先行している科から始めていくのはどうか。」

運営委員・形成外科学 亀井「同門施設からもセミナー参加希望の声が上がっている。また、他大学では参加料を徴収して行っている。」

運営委員・耳鼻咽喉科学 曾根「セミナー開催歴にご遺体数を記載してほしい。その方が規模をイメージしやすい。」

宇田「5月の形成外科・耳鼻科合同は3体。9月の脳神経外科は1体。」

亀井「シール固定法は組織の柔軟性が保たれており有用で、セミナーは大変勉強になる。」

荒木「それではまずは先行する脳神経外科、耳鼻咽喉科、形成外科から同門に拡大させていただく。内規変更の必要性も検討する」

木山「立ち上げはそれで良い。セミナー参加者から料金を徴収するようになった時、利益目的とみなされないようにしなければならない。」

経営企画係 酒井「利用料の規定を定めるべき。」

木山「必要経費のみで高額にならないように。」

藤本「妥当な金額で始めるように。」

酒井「他大学の料金設定との兼ね合いもある。」

石黒「参加者の学内外で料金差をつけるべきではない。今後事務的に詰めていく。」

荒木「続きはメール審議とさせていただきます。」

3)利用者からの参加費徴収について

宇田「先程の議論の通り、改めて検討していく。」

4)今年度予算の残額の用途について

宇田「残額の用途としてご遺体の固定・管理に必要な吸引器具やポンプ注入器をまず購入したい。また、セミナー開催の第一回目のハードルが高いと思われ、必要物品の費用を CALNA から各科へ補助したい。」

石黒「予算残額については、今は病院予算なので無理に使い切らなくても問題ない。」

酒井「繰越ししても次年度予算に上乘せはされない。必要に応じて残額を使っていたきたい。」

荒木「CALNA から補助するので是非各科にセミナーを開催していただきたい。」

石黒「是非内視鏡をやってほしい。参加費無料であれば開催しやすいか。」

腫瘍外科学 宮田「参加者は当然無料のほうが参加しやすい。」

椰野「同意見。」

実務委員・麻酔科学 柴田「早く学外へ門戸を開いていくべき。」

腫瘍外科学 宮田「内視鏡は購入していただいただけそうか？」

石黒「内視鏡があったほうが良いのは間違いない。補助金が得られなかった場合も考慮すべき。セミナー参加料は、(病院の) 諸料金規定のこともあり、すぐに有料化は難しいだろう。」

椰野「手術室の中古品が使えないか、すぐに探すべき。」

石黒、椰野「費用を考慮すると新品を買うべきではない。」

曾根「最新設備でトレーニングして、古い設備で手術するのもおかしい。」

柴田「麻酔器については余りがある。肺を動かすことも可能。固定後にどれくらい膨むのか不明であるが。」

荒木「解剖室にガス配管がない。」

石黒「配管はポンペで代用可能。」

宇田「本件については以上とさせていただきます。」

荒木「その他全体で何か質問はあるか？」

運営委員・分子病原細菌学 荒川「この運営委員会は年1回の開催なので、来年度予算についてもこの場で提示しておくべき。」

石黒「来年度も同様に病院予算を出す予定。学内全体に広がったほうが執行しやすい。ぜひ多くの診療科に参加いただきたい。」

柴田「他大学では外国人留学生は参加禁止となっているところもある。一方で参加費を払えば良いとされているところもある。名大も不老会との関係も考慮して参加者についての規定を設けた方が良い。」

藤本「今までにその点が検討されたことはない。長期留学中の参加者は良いとしても、参加費さえ払えば火葬は無関係という考えはやめていただきたい。」

荒木「今後の検討事項とする。本日の継続審議事項、および厚労省への補助金申請の件は今後メール審議していく。どの診療科のセミナー開催もアシストするので、是非開催していただきたい。」